

コバルトの国際相場は年末にかけてボンド当たり15ポンドまで下落していくとみている。

コバルト

高品位品(純度99・8%)の国際相場は、8月中旬の18ポンドから1カ月間にわたり高原状態が続いていたが、9月末を待たずに下がり始めた。これは中国が購入意欲を失ったのが原因だ。コバルトの価格は横ばいから一度下げると、自律的に一定ラインまで下落する傾向がある。地金も化成品も市場に潤沢にあるので、年内は下値探り基調だろう。

中国買い意欲後退、15ドルに下落

スーパーアロイ(高強度耐熱合金)の需要分野では、エネルギー産業は堅調だが、航空機産業は納期遅れで激減している。リチウムイオン電池向けも、正極材成分の進化により、電池生産量が需要に比例するとは言いきれなくなっている。需要は強いとは言えない。1月以降は見通しが立たない。来年2月下旬にロンドン金属取引所(LME)へ先物が上場されると発表されているが、もし実現すれば、思惑で買われる可能性はある。



メタルドゥ社長

藤田 國廣氏